

学びと
共鳴編

中京マチビト Café



開催報告

「防災×ART コミュニケーション」

中京マチビトCafeとは？

中京の今後の自主的なまちづくりについて、
ワークショップ形式で話し合う交流会です。
まちづくりについての情報交換、
交流の場として開催しています。

開催日時：平成 28 年 6 月 7 日（火）
午後 7 時～9 時半

場 所：中京区役所 4 階会議室

参加者：68 名（運営スタッフ除く）

1 今回の目的

- 防災について楽しく学ぶ
- 熊本地震の被災地の現状を知る
- 防災について意見交換



2 プログラム

1 ぶちブレ Cafe

開始前に自由なおしゃべりを楽しんでいただくぶちブレ Cafe。

2 オープニング

- ・谷口座長の挨拶
- ・プログラムの説明

3 学び

ゲストの室崎友輔さんと大西賞典さんからのご講演に加え、中京区役所健康づくり推進課、支援保護課の職員 2 名から熊本地震支援の現地レポートを聞きました。

4 共鳴（対話）

防災にまつわるテーマを会場から募集。ゲストのお二人を含む 17 ものテーマが提案され、約 25 分の意見交流。どのテーブルも議論が弾み、あっという間の時間でした。

5 共有・振り返り

本日学んだこと、気づいたことの振り返りと、ゲストへの質疑応答タイム。防災へのみなさんの興味・関心は尽きない様子でした。



3 豪華ゲストによる話題提供と意見交流

室崎友輔氏(NPO 法人プラス・アーツ)



中京マチビト Cafe「学びと共鳴編」は皆で同じテーマについて“学び”，話し合い“共鳴”することを目的としています。今年度は年 3 回開催予定。初回テーマは「防災×ART コミュニケーション」とし、豪華ゲストに防災について楽しく学べる講義をしていただきました。

大西賞典氏(加古川グリーンシティ防災会)

防災について関心のある方から積極的な意見も飛び交い、防災への意識・関心の高さも感じられました。みなさんの実践に繋がる後押しになればスタッフ一同幸いに感じます。

さて、次回のマチビト Cafe は、**8 月 25 日(木)19 時から**開催します。



4 話し合われたテーマ一覧（詳細裏面）

1 災害後の支援を考える

2 農家を使って
防災×子どもイベント

3 子ども・高齢者向け防災のための音楽

4 災害時の食べることについて

5 祇園祭宵山で災害が起きたら!?

6 防災への意識を高める方法

7 避難所でのペットラブルを考える

8 女性の視点で防災を広げるには

9 学生をもっと地域に参画させるためには？

10 震災に危機感を！

11 外国人観光客/留学生と防災

12 防災×学生と地域の関係再構築

13 下宿生と地域防災

14 非常食を楽しく食べるアイデア

15 楽しくなる防災，学べる企画

16 高齢者で賑わう防災訓練

17 行政に何を求めるのか？

話し合いの内容



テーマ	内容
1 災害後の支援を考える	京都の特殊性（道幅の狭さ、外国人や観光客の多さ）を踏まえた防災マニュアルの整備が必要。行政は災害時に着実に“動ける”ことが重要。
2 農家を使って防災×子どもイベント	農家が防災の拠点となれることを目指す。そのために子ども向けのスクールを実施する。
3 子ども・高齢者向け防災のための音楽	音楽をツールとして、子どもや高齢者が楽しく防災活動できるような取り組みを目指す。具体的には防災の歌を作ったり、演劇にしてみるなど。
4 災害時の食について	生きることは食べることである。自然の恵みの豊かさを多くの方に知ってもらい、味わってほしい。
5 祇園祭宵山で災害が起きたら!?	平成13年に発生した明石花火大会歩道橋事故のマニュアルを教訓とし、祇園祭宵山で万が一発生した場合を想定し、考える対応を議論。
6 防災への意識を高める方法	防災とは大切な人の命を守ることだと気づき、日ごろからできる防災とは何かを話し合い、ハザードマップの作成や避難所ルートの確保などが挙がる。
7 避難所でのペットトラブルを考える	ペットと一緒に防災訓練に参加し、ペットがトラブルの原因にならないかを検証したい。人間だけでなくペットも日ごろからご近所とのコミュニケーションが必要。
8 女性の視点で防災を広げるには	防災イベントに参加してほしい人たちの関心に寄り添い、+αの仕掛けを企画していきたい。

参加者の声（一部抜粋）

- 新たな発見がたくさんあった。課題も多いことがわかり、これから意識して考えていきたい。
- 防災意識の向上と動機付けのヒントが得られた。
- 防災は確実ではないが、日常生活の一部として考えていきたい。
- 非常に満足できる内容だった。是非こういったCafeを大学や自分の居住区でもやりたい。
- 働き盛りの若者をいかに防災に結びつけるか、考えていきたい。
- 講演やワークショップなど時間配分が絶妙で楽しく時間を過ごせた。
- 準備や進行に至るまでうまく考えられているなと感じた。

テーマ	内容
9 学生をもっと地域に参画させるためには?	災害時、地域の人は若者の力がほしいはず。若者も何か行動を起こしたいはず。相互に助け合える関係づくりが大切。きっかけはまず“あいさつ”から。
10 震災に危機感を!	震災の教訓を、震災を知らない後世の人々にもっと伝えていく努力をする。また、もしもの時に備えて、その教訓を活かし、発揮できるよう日ごろから危機感を持つことも大切だ。
11 外国人観光客/留学生と防災	外国人目線に立って、また意見を取り入れながら防災を考える。具体的に、留学生による外国人観光客の災害時の避難誘導や支援、言語・異文化の理解、多言語ハザードマップの作成など。
12 防災×学生と地域の関係再構築	神戸商船大学の寮生たちが阪神淡路大震災で多数の近隣住民を救助した実績から、京都の学生にもその技術を身につけてもらいたい。
13 下宿生と地域防災	地域に関心がない学生にどのようにして防災意識の向上をはかるか。また、学生が地域住民に溶け込めるにはどうしたらよいかを議論。
14 非常食を楽しく食べるアイデア	非常食を非常時だけのものとせず、普段から試したり、知っておくことでいざという時の不安を解消しておく。レトルト以外にも非常食になるものを普段から知っておく。
15 楽しくなる防災、学べる企画	防災に関心を持たない人たちをどのように巻き込むかを議論。大学や、自分の店などまずは身近なコミュニティから発信していきたい。
16 高齢者で賑わう防災訓練	高齢者に負担がなく、かつ興味・関心を持ってもらえる防災訓練を企画するにはどうすればよいか議論。
17 行政に何を求めるのか?	市民側としては行政がしてくれるという受け身姿勢の意識改革が必要。行政側は市民が何を求めているかを的確に把握することが必要。

『本日得た気づきやヒントを実際に地域などで実施する機会はありますか?』

（一部抜粋）

- 防災訓練・消防団活動
- 地域と連携したイベント開催
- 防災運動会などをすでに実施している。
- サークルでのイベント活動に活かしたい。
- 自分の身近なひとたちや家族とも話し合ってみたい。
- まずは非常持出袋などを準備し、また周囲にも広めていく。
- コミュニティが一番大事だということを伝えていきたい。

